

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

在家遺跡「古代の官衙関連遺跡を発見」

スマートタウン造成事業に伴い、別府地区に所在する在家遺跡の発掘調査（新設道路部分）を3月～9月まで行いました。工事に先行して試掘調査を実施したところ、遺跡の広がり確認され、発掘調査を前期・後期に分けて実施し、奈良・平安時代（約1300年前）と鎌倉時代（約800年前）で成果があげられました。今回の調査では、攪乱を受けた箇所がありましたが、官衙（昔の役所）に関連する要素のある遺構・遺物が特徴的です

前期調査では、幅2m程の東西方向の溝と南北方向の溝を確認し、直角関係にあることから、一連の区画溝の可能性がります。この溝からは、盤、硯、朱墨パレット転用の蓋を含む土師器・須恵器が出土しています。区画内には大型掘立柱建物跡（上写真）を複数検出し、主軸方向が概ね一致しています。また、掘立柱建物群内に1棟だけ大型竪穴建物跡が検出された他、大量の焼土と共に遺物が廃棄されていた土坑や、土採りを目的とした土坑などを複数検出しています。区画外からは竪穴建物跡群を検出し、鉄製品やスラグなども出土しています。

後期調査では、竪穴建物跡、建て替えられるものも認められる掘立柱建物跡、土採り土坑などを検出し、主に集落域にあたると思われます。

なお、全調査を通して出土した文字資料は、これまでに朱墨「荒」・墨書「丈」・「西」・「林主」などが確認されています。今後、整理調査を進め、内容の再精査を図りたいと考えています。現地説明会を9月14日（土）に開催したところ、200名を超える参加者がありました。普及の面でも成果が得られたと考えています。



全景写真（上が北）

竜巻被害に対する文化財レスキュー事業の実施

9月27日、同月16日に発生した竜巻で全壊した浄安寺（熊谷市御正新田）の地蔵堂から、市指定文化財「千体地蔵」の本尊や地蔵を回収して別の場所で保管する文化財レスキューを実施しました。倒壊した地蔵堂の屋根などの下敷きになっていましたが、水洗いして乾燥させた後、本堂に仮安置しました。作業によって、645体の仏像を確認することができました。これらの他、本尊の中から胎内仏が発見されました。



熊谷市ムサシトミヨをまもる会の活動が日本ユネスコの未来遺産運動に登録

公益社団法人「日本ユネスコ協会連盟」は、熊谷市ムサシトミヨをまもる会の「世界で一つだけの『元荒川ムサシトミヨ生息地』保護活動」を、ユネスコ・プロジェクト未来遺産運動に登録することを決定しました。これは埼玉県では初めての登録となります。この登録は世界で熊谷市だけに生息しているムサシトミヨの保護活動を続ける、熊谷市ムサシトミヨをまもる会の取り組みが、次世代に継承されるべき貴重な遺産として高く評価されたものです。「元荒川ムサシトミヨ生息地」は県指定天然記念物に指定されています。（写真：生息地での清掃活動の様子）



市内遺跡発掘情報

上之土地区画整理地内遺跡の発掘調査について



上之土地区画整理事業に伴い、事前に発掘調査を行っています。今年度は、5～9月に藤之宮遺跡、11～12月に諏訪木遺跡及び上之古墳群の発掘調査を行いました。

藤之宮遺跡では、古墳～奈良・平安時代の竪穴住居跡（左写真）や掘立柱建物跡等が重なりあって多数見つかリ、土器をはじめ、多くの遺物が出土しました。

諏訪木遺跡及び上之古墳群は、同一箇所にも広がる遺跡ですが、諏訪木遺跡では主に中・近世の溝跡や掘立柱建物跡等、上之古墳群では円墳

の周堀の一部が見つかりました。前者からは板碑（右写真）や陶磁器、かわらけ、漆器、木製の下駄等、後者からは埴輪の破片が出土しました。



籠原裏古墳群の発掘調査「さらに南へ広がって分布する古墳を発見！」



現在、市内新堀地内JR籠原駅北において8月からの発掘調査が進行中です。調査は、土地区画整理事業に伴う街路築造及び店舗建設箇所において実施しており、籠原裏遺跡及び籠原裏古墳群の範囲内にあたります。

調査により、主として古墳時代後期（7世紀末頃）の古墳4基が確認され、これまで11基の古墳が確認されていた籠原裏古墳群が南へと広がっていることが新たに分かりました。街路築造箇所に2基（第12・13号墳）、店舗建設箇所に2基（第14・15号墳）確認され、第12・13号墳は多角形墳になる可能性が高いものであり、周溝ま

で含めた規模が直径約1.6mと他の2基に比べると規模が大きなものです。また、いずれの古墳も埋葬施設は胴張型横穴式石室で、わずかな出土遺物と石室の形態から7世紀末～8世紀初頭と考えられます。なお、この時期は、ここから約2km北西には当時の幡羅郡家（郡役所）があり、その郡家との関係においても注目される古墳です。（写真は第12号墳検出状況。中央が石室である。）

市内遺跡発掘概要「個人住宅建設に伴う発掘調査」

まず、8月に、広瀬地内の不二ノ腰遺跡及び石原古墳群の発掘調査を行いました。この発掘調査箇所は不二ノ腰遺跡、及び石原古墳群にまたがる場所で、掘立柱建物跡の一部と思われる柱跡が検出され、底部からは柱を支えたと思われる礎が検出されました。9月には上之地内で前中西遺跡の発掘調査を行い、弥生～古墳時代の土器片、数条にわたる溝跡を検出しました。9月下旬から10月上旬に掛けて、永井太田地内の北廓遺跡の発掘調査を行い、平安時代の土器片などが出土しました。10月には妻沼中央地内で彦松西遺跡の発掘調査（写真）を行い、幅1.5mほどの比較的大きな溝が調査区を南北に縦断しているのが検出され、水路としての利用が考えられます。



連載 くまがやの古墳群

⑦ 瀬戸山古墳群

瀬戸山古墳群は、平塚新田・楊井地区の江南台地北縁部に立地し、東西に広く分布する古墳時代後期から終末期にかけての古墳群で、現在33基が確認されています。

古墳は、6世紀後半の前方後円墳・伊勢山古墳の他は全て円墳で、33基のうち18基は、発掘調査が行われています。北西部の13基は、周溝のみ検出された円墳で、一部の古墳からは馬形埴輪や円筒埴輪が出土し、前方部が短い帆立貝式の前円墳の可能性が考えられる二重の周溝をもつ古墳も存在します。

一方、南東部の5基については、全長4.1mの前円墳である伊勢山古墳の他は楊井薬師寺古墳第1号墳などの円墳で、いずれの古墳の埋葬施設も凝灰岩（ぎょうかいがん）の截石（きりいし）を切り組みし精巧に造られた横穴式石室です。また、伊勢山古墳からは直刀、鉄族、轡（くつわ）（馬具）のほか円筒埴輪が出土していますが、他の円墳からは埴輪が出土していません。以上のことから、本古墳群は、埴輪があった6世紀後半から埴輪が消滅した後の7世紀末～8世紀初頭までの長期間にわたり造られた古墳群です。（写真は楊井薬師寺古墳第1号墳の全景）



文化財センター通信

企画展「茶磨展」

平成 25 年 7 月 11 日から平成 26 年 1 月 10 日にかけて、江南文化財センターにおいて、「茶磨」に関する展示を行いました。茶磨は、中国北宋代（960-1127）に発明され、14 世紀頃日本へ伝わった、茶葉を粉末にする石製の回転式粉碎機のことです。現在、日本では一般的に「茶臼」と表記されますが、既に中国北宋代において「茶臼」と表記される木製の道具が存在しており、磨る機能を持つ器具であることから「茶磨」と表記されるべきものです。

遺跡からの出土例は、中世では寺院・城館跡・墓域から、近世では大名屋敷・城館跡から主に出土しています。今回の展示では、市内出土品の他、伝世品や陶製の茶磨、根付等も展示しました。（熊谷デジタルミュージアムの読書室〈PDF 文庫・パンフレット〉に資料を掲載）



（写真：根付「茶磨坊主」）

第六回地域伝統芸能今昔物語

11 月 23 日、江南総合文化会館ピピア・ホールにて埼玉県芸術文化祭 2013 地域文化事業「第六回地域伝統芸能今昔物語」を開催しました。約 550 名の来場者が無形の文化財保持団体の 7 団体・芸能 7 団体、賛助出演 1 団体の、計 15 団体による共演を鑑賞されました。伝統芸能を次世代に継承することを目的に、各団体ともに児童生徒を始めとした多くの若手の出演がありました。同会場では無形民俗文化財パネル展も開催し、市内の伝統芸能や世界無形文化遺産の紹介を行いました。



須賀広ササラ獅子舞

国指定史跡「宮塚古墳」を地元の小学生が清掃

11 月 30 日、国指定史跡「宮塚古墳」において地元の広西子ども会の児童（大麻生小学校）及び保護者、約 20 名による清掃が実施されました。宮塚古墳は上円下方墳と呼ばれる珍しい形をしていることから、昭和 31 年に国指定史跡に指定されました。参加者は落ち葉や枝などを協力して集めて袋に詰め込んでいました。清掃後、担当職員から古墳や市内の文化財についての説明を行いました。



小学生による落ち葉拾い

文化財探訪

押切の双体道祖神（熊谷市指定有形文化財：熊谷市押切 700）

造立：寛政十年（1798）八月十一日。

施主：上押切村中。願主：彗昌。

道祖神は、日本古来の邪悪をさえぎる塞神と中国渡来の道祖信仰との習合で道陸神（ドウロクジン）やサイノカミと呼ばれ、村境や峠、辻、橋のたもとに建てられ、外から入ってくる疫病、悪霊の類を防ぎ、村人や旅人の安全を守ってきました。男女 1 対となる「双体道祖神」は、長野県から群馬県方面に多く見られる石造物です。

押切の「双体道祖神」は、ドウロクジンサマと呼ばれており、足の神様としての信仰が見られ、近年まで、足の病にかかると大きなわらじをつくって奉納したと伝えられています。頭上に冠を載せ、仲睦まじく 2 体が肩を組み、手をつなぐ、二神組肩握手型とされる型式です。この「双体道祖神」は、上押切村の、昔日の面影を残す貴重な文化財です。



文化財コラム 古代との遭遇・第13話『水辺での祭りごと 西別府祭祀遺跡』

昭和38年3月21日、熊谷市立南小学校6年生の児童2人によって、西別府の湯殿神社裏の北東面崖下・別府沼の中から、加工した珍しい石など約20点が発見されました。その後の調査にて、古代の祭祀に用いられた馬形、櫛形、勾玉形、円板形、剣形などの滑石製模造品と土錘（どすい）であることが確認されたのです。同年4月4日から3日間、滑石製模造品が見つかった地点の発掘調査を実施しました。その結果、土器、土錘（どすい）などのほか160点ほどの滑石製模造品が検出され、形状の判明するものは馬形13点、櫛形19点、剣形3点、勾玉形16点、有孔円板形10点、有線円板形19点に及びました。発掘した場所が湯殿神社のほぼ真下に当たり、以後湯殿神社祭祀遺跡という名称で知られることとなります（平成になって西別府祭祀遺跡と改称）。平成4年には、湯殿神社下の沼地全域の発掘調査が行われ、祭祀が7世紀半から11世紀代に及んでいたこと、滑石製模造品（写真左上2点人形（ひとがた）、右上5点馬形、中・下段櫛形）を祭具としていた時代が7世紀後半の年代、つまり律令制開始直前であること、それ以後は土器を中心に行われたことなどが分かってきました。本遺跡は、崖の上に南に隣接して西別府廃寺、そのすぐ西側には幡羅遺跡（幡羅郡役所跡）が所在し、これらの遺跡と密接な関係を持つ重要な遺跡となっています。（左写真：滑石製模造品）



（左写真：滑石製模造品）

◇ 国宝を見に行こう！ 妻沼聖天山本殿「歓喜院聖天堂」のご案内

歓喜院聖天堂	場所・問合せ	交通アクセス	拝観料	公開日時
	住所： 熊谷市妻沼 1627	バス利用の場合： JR熊谷駅：朝日バス（6番乗り場） ～太田駅行・妻沼聖天前行・西小 泉駅行～「妻沼聖天前」下車。 ゆうゆうバス（市内循環バス）： グライダー号・ムサシトミヨ号、 「妻沼聖天前」下車。	700円 （小学生以下は 無料） ガイド解説付き 境内入場は無料	年中無休 10時から 16時30分 （受付は16時 まで）
	電話： 048-588-1644 （寺務所）			

編集後記

平成25年は日本の文化財の分野においても歴史に残る一年となりました。それは日本のシンボルでもある「富士山」が世界文化遺産に登録されたこと、そして私達の生活を彩る「和食」が世界無形文化遺産に登録されたことです。日本人にとっての身近な存在が、世界を代表する文化遺産として認められたことは私たちにとっての誇りであります。また登録を機に富士山へ登山する人や、和食文化を再認識する人も増えているようです。文化遺産や文化財が意外と身近にあるということを感じた方も多くいたことと思います。熊谷市の中においても、古い時代から今に至るまで大切に守られてきた身近な文化財が数多くあります。本紙や熊谷デジタルミュージアムを参照しながら、文化財探訪をお楽しみください。



発行：平成26年1月10日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、「BUNKAZAI情報」カラー版などを豊富に掲載